



おんでやあんせ八戸



11月14日、15日に開催された第65回全国肢体不自由教育研究協議会〈青森大会〉に参加してきました。「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進」～カリキュラム・マネジメントによる質の高い教育実践をめざして～という大会主題をもとに、「学習指導要領の改訂による肢体不自由学校への期待」、「肢体不自由教育の現状と未来」をテーマとしての講話をきかせていただきました。また10テーマの分科会や66本のポスター発表、八戸第一養護学校での公開授業などの中で、たくさんの情報があふれ、学んでくることができました。吸収したことをいくつかまとめましたので紹介します。

≪ 菅野和彦先生の講話から ≫

・「何を学ぶか」という教育内容を重視しつつ、そこから「何ができるようになるのか」を見据えて、どのような資質・能力の育成をめざすのかを指導のねらいとして設定していくことが重要である。

・「どのように学ぶか」→「主体的・対話的・深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け生涯にわたって能動的に学び続けるようにする。どの授業で、どの視点を置くか授業改善が重要である。

・「主体的・対話的・深い学び」の視点に立った授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

・指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切である。

≪ 第2分科会(教育課程Ⅰ 準ずる教育課程)から ≫

第2分科会では、『言語能力の向上につながる「対話的な学び」の視点を生かした授業づくりについて』という協議の柱に沿って、4つのグループに分かれて協議し、それぞれのグループが発表しました。

・準ずる教育課程は1人学級が多いため、集団でやりとりができるような場の設定が必要である。



・生徒の興味や関心事に着目し、話しやすい内容から生徒の意欲につなげる。

・生徒の発言に対して肯定的に評価し、発言しやすい暖かい雰囲気を作る。

・授業の中での発表の仕方・話し方の見本などを掲示して、パターン化する。

・自分の言葉で意思表示ができるように、発問の工夫が必要である。

おわりに

今回の全国大会への参加は初任2年目の私にとって、とても有意義なものになりました。自分には足りないところが多々ありますが、これからどんどん吸収してレベルアップをしていきたいと思います。また、北海道から参加した他校の先生方とも親睦を深めることができました。チーム北海道は One Team となって他県に負けずに、これからの北海道の特別支援教育を盛り上げていきます。